

【解説】

第1問 文化の繁栄や受容

A

問1 正解① (イタリアの歴史) 1

- ①イタリア史において、国家統一の遅れた原因を整理することは重要である。P. 149 を見て、神聖ローマ皇帝のイタリア政策が、教皇党と皇帝党の抗争の背景にあったことを理解したい。
- ②分裂状態の長期化に続いて、イタリア統一の過程も頻出事項と言える。P. 228 の年表と地図で整理したい。ウィーン体制下で青年イタリアを率いたのがマッツィーニで、自由主義的な統一運動を企図した。その後、サルデーニャ王国を中核とし、外交的手段を含めた「上からの統一」をめざしたのがカヴールである。両シチリア王国を征服し、サルデーニャ国王に献上したガリバルディも忘れてはならない。
- ③P. 257 の地図を参照。イタリアがオスマン帝国との戦争で得たのはリビア。モロッコはフランス領となる。
- ④P. 90 で確認できるように、ミラノ勅令はコンスタンティヌス帝時代のもので、キリスト教が公認された。国教化ではないので注意。ヴァチカン市国の成立についてはP. 269 の4参照。イタリアのファシスト政権が国際的評価を高める意図もあって、教皇庁とラテラン条約を結び、同国が成立する。

問2 正解② (交易の歴史) 2

- ①中世ヨーロッパの遠隔地商業については、P. 144 を参照。バルト海商業圏と地中海商業圏を結びつけたのがシャンパーニュの都市であり、内陸に位置する。海運が発展するのはハンザ同盟や北イタリアの都市だろう。
- ②P. 170 参照。清朝はキリスト教に対する制限を強めるとともに、ヨーロッパとの貿易でも管理を強化していった。唯一の窓口となった広州を中心に貿易管理を担ったのが公行である。
- ③P. 283 参照。第二次世界大戦の要因の1つは、列強各国が実施したブロック経済および保護貿易政策にあった。これを反省してつくられたのがブレトン=ウッズ

体制である。途上国支援を行う I B R D, 為替の安定を図る I M F, 自由貿易をめざす G A T T (後に W T O に改組) が, 同体制の中核を担った。

- ④アメリカ大陸やアジアへのヨーロッパ諸国の進出については, 時期や拠点を整理する必要である。当然, 地図を用いて理解すること。P. 210 および P. 211 が参考になるだろう。

問 3 正解② (宮廷の文化) 3

①中国史の諸事項は, 巻末の一覧表などを用いて整理することも必要。王羲之は東晋の書家で, 楷書・行書などを芸術的な完成に導き, 典雅かつ力強い書風で知られる。P. 115 を参照。女史箴図を描いたのは東晋の顧愷之で, 同ページに掲載されている。

②中世ヨーロッパの文学は騎士道と英雄がキーワード。P. 150 には, 吟遊詩人について, 図版入りで解説がある。

③バロック美術は宮廷芸術の色彩が濃い。スペインのベラスケスなどが典型と言えるだろう。P. 208 で, くっきりした色合いのバロック的画風とともに確認しておきたい。モネはフランスの印象派画家で, 独特な方法で光や光線を表現した。P. 239 に掲載されている。

④P. 208 と P. 209 参照。バロック様式のヴェルサイユ宮殿とロココ様式のサンサーシ宮殿は, ペアで記憶したい。建築した国王も含めて整理したいところ。ゴシック様式は中世ヨーロッパの教会建築様式で, ロマネスク様式とペアになる。こちらは P. 150 の 2 参照。

B

問4 正解① (古代のギリシア世界) 4

- ①P. 78 でクレタ文明とミケーネ文明を比較したい。クレタ文明は非ギリシア系のようで、線文字Aも未解読。ギリシア人が築いたミケーネ文明については、ギリシア語をあてはめて線文字Bの解読が進んだ。
- ②P. 80 の年表参照。貴族と平民の対立を利用して僭主が登場すると、これを防ぐため、クレイステネスの時代に陶片追放の制度がつくられた。扇動政治家は、アテネ民主政の衰退期に登場する衆愚政治のシンボル。政治の混乱を招く点で似ているが、登場する時期は全く異なるので注意。
- ③P. 84 の①参照。古代ギリシアの演劇は、政治や社会を風刺することもあった。三大悲劇詩人には、フェイディアスではなく、ソフォクレスが入る。ソフォクレスの『オイディプス王』は現代の心理学などにも影響を与え、世界文学史上の至宝と言える。フェイディアスはパルテノン神殿の建立に関わった彫刻家で、古典様式の作品をのこした。
- ④ギリシア系民族の移動については P. 79 の地図Aを参照。合わせて、P. 80 の②でアテネとスパルタを比較整理したい。民族移動の混乱の中で、貴族を中心に集住型で形成されたアテネは、イオニア人のポリス。一方、スパルタは南下移動したドーリア人が、他のギリシア系集団などを征服して建てたポリス。先住民を支配する必要から、リュクルゴス体制が生まれた。

問5 全員正解 (制度や政策の歴史) 5

- ①巻末の中国王朝変遷表および P. 114 の①を見ると、屯田制が実施されたのは三国時代の魏である。魏晋南北朝時代の混乱の中で、魏の屯田制、西晋の占田法・課田法、北魏の均田制など、国家が農民を把握するためのシステムが生み出されていった。
- ②P. 139 参照。テマ制がうまく運用できた時代のビザンツ帝国は、封建社会化した西欧に比べて中央集権的であった。しかし、土地を世襲する貴族が増えると、これを追認し、プロノイア制に移行する。ビザンツ帝国も封建化したことを意味する。ムガル帝国で、軍事的奉仕と引き替えに給与地(徴税権を伴う)を与えるシステムはマンサブダール制。こちらは P. 181 に解説がある。
- ③まず、P. 220 の①でティルジット条約を確認し、ナポレオン戦争の中でプロイセ

ンが領土を大きく削減され、危機に陥ったことを認識したい。この直後、ナショナリズムの勃興したプロイセンでは、シュタイン・ハルデンベルクの改革が実施される。改革内容については、P. 221 の「チェック」を見ておこう。ベルンシュタインは修正主義を唱えた人物。P. 255 の³参照。ドイツ社会民主党が、労働者による階級闘争を重視するマルクス主義を唱え、第2インターナショナルの中核となる中で、議会を通した漸進的改革を主張した。

④アトリーは、第二次世界大戦末期にチャーチルにかわって労働党内閣を組織した。ポツダム会談にも関わっている。P. 282 の³や P. 308 を参照。

問6 正解② (文化の受容) 6

- a まず P. 128 を見て欲しい。ギリシアやインドの古典文化は、イスラーム世界でアラビア語への翻訳活動を伴いながら、継承・蓄積された。これが、イベリア半島・シチリア島など、イスラーム教徒とキリスト教徒の接触(戦い)が多かった地域でラテン語に翻訳・継承され、12世紀ルネサンスを开花させる。南イタリアはビザンツ文化圏も重なることから、ギリシア語からラテン語への直接の翻訳も行われた。P. 161 の³も併せて参照したい。
- b P. 98 の地図^A・^Bを見よう。バクトリア王国はギリシア系の国家である。この故地に成立したクシャーナ朝時代に、ガンダーラ地方でヘレニズムの影響を受けた仏教美術が発展する。P. 99 の³で見ると確かに、アジア的で柔和な仏像とは異なる雰囲気である。

C

問7 正解① (文化の受容や技術の伝播) 7

- ①・②モンゴル帝国時代には、ユーラシア規模のネットワークが出現し、人・モノ・文化等の交流が盛んとなった。P. 165 を参照。中国側からイスラーム世界への影響が見られる例として、ミニアチュールの発展、イスラーム側から中国文化への影響例として、郭守敬による授時暦を挙げることができる。
- ③テーマ5「動物と植物に見る世界史①」でコーヒーに関する解説を読んで欲しい。人間の生命を支える動植物には、それぞれの歴史がある。
- ④火薬は羅針盤・活版印刷とともに宋代中国の三大発明とされる。P. 155 を参照。これが、モンゴル帝国時代に築かれたネットワークに乗ってヨーロッパに伝播し、改良が加えられた。P. 193 を見ると、同じものが、ルネサンスの三大「改良」として確認できる。これらの改良品が、ヨーロッパの大航海時代や宗教改革を支えていった。

問8 正解② (指導者の歴史) 8

- ①P. 163 の4参照。元朝の滅亡の背景には帝位をめぐる内紛、チベット仏教を厚遇したことに伴う財政難、交鈔濫発による経済混乱などに加え、紅巾の乱の勃発を挙げることができる。同時期にペストも流行し、諸ハン国の衰退傾向も顕著となった。
- ②アギナルドについては P. 247 参照。アメリカの支援を受けながら対スペイン独立革命を指導し、「共和国」を樹立する。しかし、アメリカはこれを承認しなかった。後にアギナルドは、アメリカと対峙することとなる。
- ③第二次世界大戦後のアフリカについては P. 304 参照。エンクルマはガーナを早期の独立に導き、第三世界の台頭を印象付けた。第1回非同盟諸国首脳会議にも出席している (P. 289)。南アフリカのアパルトヘイトと、これの全廃に尽力したマンデラおよびデクラークについては、P. 304 の2参照。
- ④サッチャーはイギリス保守党内閣の首相で、イギリス経済の再生策を断行し、フォークランド戦争でも強い対応をとるなど、「鉄の女」と呼ばれた。P. 308 参照。

問9 正解④ (南北アメリカの歴史) 9

- ①カーター大統領の外交政策は「人権外交」と称される。P. 306 の年表参照。ニク

ソン大統領の訪中を受けて、米中国交正常化を達成したほか、エジプト-イスラエル間の和平を仲介した。棍棒外交は帝国主義的な外交であり、セオドア=ローズヴェルトのカリブ海政策などを指す(P. 259 参照)。海軍の増強とパナマ運河の建設開始を伴っていた。

- ②OASはアメリカと中南米諸国が結成した、西側陣営の安全保障体制の1つ(P. 287 の³)。社会主義化したキューバに対峙した。アメリカの中南米に対する影響力は、同地域の軍事独裁政権を生み出す一方、アメリカに反発する左翼政権も生じさせた。P. 307 の³も合わせて参照したい。
- ③ナポレオン3世は積極的な対外進出政策をとることで、国内諸階層からの支持を得ようとした。P. 227 を参照して、その対外政策の中にメキシコ出兵が含まれることを確認しよう。この時、メキシコ皇帝に担ぎ出されたのがマクシミリアンだが、アメリカ合衆国の反発もあって銃殺された。P. 225 の²も見ておこう。ブラジルの独立は19世紀前半である(P. 224 の年表)。
- ④P. 185 を参照して、アメリカ大陸の古代文明の共通点と相違点を整理したい。例えば、マヤ文明は文字を持つが、インカ文明は文字を持たない。どの文明でも太陽信仰、太陽崇拝とともに暦法が発達していたようで、マヤ文明の二十進法とマヤ暦は有名。

第2問 戦争や対外関係

A

問1 正解④ (イギリスとフランスとの抗争やその帰結) 10

- a 第2次英仏百年戦争に伴う両国の植民地獲得状況については、P. 211 のようなビジュアルな整理が必要。特にユトレヒト条約とパリ条約による変化は重要である。両条約の結果、フランスは北米大陸方面の植民地をほぼ全部失った。
- b P. 148 参照。エドワード3世によるフランス王位継承権の主張が、百年戦争の一因となった。

問2 正解④ (国家の領土拡大) 11

- ①アメリカ合衆国の領土の拡大については、P. 234 の地図Aのように、地図を使った整理が必須となる。フランスから買収したのはミシシッピ川以西のルイジアナ。フロリダの領有権は、P. 217 の地図Cにある通り頻繁に入れ替わるが、最終的にスペインから買収して合衆国領となる。
- ②西ポンメルンという地名はやや細かい事象だが、三十年戦争の原因・経過・結果・影響はP. 200 で整理しておきたい。この戦争ではフランスがプロテスタント側についたこともあって、ハプスブルク家の勢力後退が明らかとなった。その結果、神聖ローマ帝国が有名無実化し、スイス・オランダの正式独立が認められ、プロテスタント側の「戦勝国」が領土を拡大する。特に、西ポンメルンなどを得たスウェーデンは「バルト帝国」と化し、ロシアとの対立を深めていく。
- ③第一次世界大戦の戦勝国となったイタリアは、サン=ジェルマン条約でイストリア・チロルを得たが(P. 267 参照)、フィウメは獲得できなかった。戦後の経済混乱を背景に台頭したムッソリーニ政権は、フィウメ併合などの侵略的政策で支持を集め、ヒトラーとともにファシズムの中核を担っていった。P. 268 の1やP. 269 の4も合わせて確認したい。
- ④P. 233 の3を参照。アレクサンドル2世はクリミア戦争での敗北を受け、農奴解放令の発布に踏み切るとともに、南下政策の矛先を極東・中央アジア方面に移していく。極東方面のアイグン条約・北京条約、中央アジア方面における諸ハン国保護国化・併合を並行して理解しよう。

問3 正解② (言語の歴史) 12

- ①サンスクリット語は古代インドの文語であり、グプタ朝の古典文化を支える。カーリダーサ『シャクンタラー』はサンスクリット文学の代表と言って良い(P. 98の[1])。ムガル帝国の公用語はペルシア語だったが、ペルシア語・アラビア語・北インドの土着言語を融合させたウルドゥー語も現れた。これについては、P. 181の[4]参照。
- ②アフリカ東岸には、季節風交易を行うムスリム商人のほか、鄭和やヴァスコ=ダ=ガマなど多様な人々が来航した。P. 131の[6]にある通り、黒人のバントゥー語とアラビア語が融合してスワヒリ語が形成されたことも、文化混交の一例である。
- ③ビザンツ帝国の公用語はラテン語からギリシア語に変化する。P. 139の年表参照。
- ④P. 99の[2]参照。南インドはドラヴィダ系の民族が興亡する。中でもタミル語は、文学的な発展を見せた。マレー語は東南アジア島嶼部の基本言語であるが、同地域に華僑・印僑が居住するようになると、中国語やタミル語の使用地域も拡大していく。P. 237の[3]も見て欲しい。

B

問4 正解① (国家間の勢力争い) 13

①P. 249 の4で、日清戦争後の中国の様子を見て欲しい。列強各国が租借地・勢力圏を得て、鉄道建設にも着手している。一方、同時期のアメリカについては、P. 259を参照。1890年の「フロンティア消滅」に続いて、1898年のスペインとの戦争で、フィリピンを勢力下におさめる。中国における租借地等の獲得に遅れたアメリカは、門戸開放通牒で他国を牽制した。

②レコンキスタ完了の頃から、ポルトガルは東回りで、スペインは西回りで、アジアやアメリカ大陸への進出をめざした。P. 182 および P. 183 で、両国の拠点や航海者を含め、整理しておこう。

③P. 260 の1で、第一次世界大戦に至る国際関係の推移を見ておこう。基本的には三国協商と三国同盟が対立する。しかし、イタリアは「未回収のイタリア」をめぐるオーストリアとの火種を抱えており、結局、協商国側(連合国側)について参戦した。P. 261 の下部も参照。

④P. 246 の1でわかるように、東南アジア大陸部の国々は清朝への朝貢国であった。しかし、ビルマはイギリス領インド帝国に併合され、タイは近代化改革を行って、清の支配から離脱していく。ベトナムについてはP. 247 の中段で確認。清仏戦争の結果、清はベトナムの宗主権を放棄し、フランスのインドシナ支配が拡大・確立していった。

問5 正解② (ロシア・ソ連の歴史) 14

①冷戦初期の基本事項についてはP. 286参照。西側諸国の動きに対抗してつくられたのはコミンフォルムである。コミンテルンはロシア革命の中で、1919年に結成された。P. 265の年表を参照。

②P. 264の地図A参照。日本軍の行動はシベリア出兵と呼ばれる。日本軍は満州への影響力確保を狙って、他国よりも長期に駐留したため、アメリカからの不信感が増大した。

③P. 265の年表で、ロシア革命後の経済政策を見て欲しい。戦時共産主義によって国民経済が荒廃すると、資本主義的なシステムを一部復活させる新経済政策(ネップ)が採用された。このあと、スターリンのもとで五カ年計画が実施され、社会主義体制の本格的構築に向かう。

④P. 204 参照。ミハイル=ロマノフがロマノフ朝の創始者となり，ピョートル 1 世が
新都サンクト=ペテルブルクを建設して，西欧化政策をとる。

問 6 正解② (冷戦の歴史) 15

P. 284 と P. 285 を見ながら，確認しよう。コメコンはコミンフォルムとともに，
冷戦初期の東側組織である。そのあと，米ソ関係は緩和と緊張を繰り返すが，ベト
ナム戦争の泥沼化の中で威信を失ったアメリカは，ニクソン大統領の訪中や，ソ連
との S A L T I を決断するに至った。アメリカの外交の転換については P. 290 の 2
も見て欲しい。米ソ関係はソ連のアフガニスタン侵攻(1979)で再び緊張し，「新冷戦」
と呼ばれる状態に至る。しかし，ソ連のゴルバチョフがペレストロイカを開始する
中で，米ソ関係は緩和に向かい，I N F 全廃条約，マルタ会談に至る。冷戦終結を
象徴する出来事として，ベルリンの壁崩壊やソ連のアフガニスタンからの撤兵完了
をあげることができる。

C

問7 正解③ (外交の歴史) 16

- ① P. 152 の1で、澶淵の盟、慶暦の和約、紹興の和議を確認しよう。いずれも、銀や絹を差し出すのは中国側であり、財政難の一因となった。
- ② P. 302 参照。エジプトとイスラエルの和平を仲介したカーター大統領、パレスチナ暫定自治協定を仲介したクリントン大統領の写真が掲載されている。
- ③ ブラントの写真は P. 308 下部。キャプションにある通り、冷戦外交から、東側諸国との和解をめざす外交に転換した。
- ④ P. 203 の2の図式を見て欲しい。オーストリア継承戦争と七年戦争ではいずれも、シュレジエンをめぐるプロイセンとオーストリアの対立がある。前者の戦争ではフランスがプロイセン側につき、後者ではオーストリア側についている。これが有名な「外交革命」である。ハプスブルク家はフランス王家と長期に対立してきたが、プロイセンに勝利をおさめるため、フランスと同盟したのである。

問8 正解④ (鄧小平の事績) 17

- ① 新生活運動は、蔣介石 (P. 274 の人物コラム) が抗日運動と並行して展開した、儒教的な民衆教化運動である。用語としてはかなり細かい。
- ② 平和五原則を発表したのは、ネルーと周恩来である。P. 289 の2参照。
- ③ P. 294 の1を参照。鄧小平は国家主席にはならず、「最高実力者」として君臨した。
- ④ 文化大革命については P. 295 の4。鄧小平などが、資本主義の復活をはかったという理由で毛沢東から批判され、失脚する。鄧小平の復権は、毛沢東の死の翌年であり、直後から最高実力者として、中国経済の大発展を導いていく。

問9 正解③ (中国の対外関係) 18

- ア P. 290 の2参照。ベトナム戦争の泥沼化で威信を失ったアメリカは外交方針を転換し、国連における中華人民共和国の代表権承認、ニクソン大統領の訪中・訪ソに踏み切った。アメリカの変化は同盟国の日本にも影響を与え、日中国交正常化が実現する。
- イ P. 299 の2参照。カンボジアの内戦では、中国の支援する政府とベトナムの支援する政権が対立しており、ここから中越戦争に至った。

第3問 図書館と書物

A

問1 正解② (ファーティマ朝の成立) 19

まず、P. 126 の地図を見て、イスラーム世界の時代ごとの特質を整理して欲しい。シーア派の世紀と言えるのは10世紀であり、選択肢の中ではb・cが候補となる。(ちなみにブワイフ朝の成立も10世紀である)。カリフは本来ムハンマドの後継者として、ウンマを束ねる存在であるから、「イスラーム世界に1人」が原則である。しかし、アッバース朝の権威が衰えると、他の王朝でもカリフを自称する者が登場した。その最初の例がシーア派のファーティマ朝であり、その後、スンナ派の後ウマイヤ朝もカリフ位を採用した。

問2 正解② (文字や記録媒体の歴史) 20

- ①パピルスの作り方はP. 68に掲載されている。ナイル川流域の風土を生かしたパピルスには、エジプト文字が記された。複雑な書体の神聖文字(ヒエログリフ)に加え、神官文字・民用文字なども派生していく。解説について、テーマ7「文字の歴史」のページにある人物コラムも参照しておきたい。シャンポリオンが、ロゼッタ=ストーンに記されたギリシア文字と比較しながら解説した。
- ②P. 106のコラムなどを参照。殷墟で出土した甲骨文字は亀甲・獣骨に記され、青銅器に刻まれた金文とともに、漢字の祖型と言える。
- ③P. 185で、古代アメリカの文明の共通点と相違点は整理したい。キープはインカ帝国(文明)で使用された。
- ④P. 71とP. 75の②参照。シュメール人の発明した楔形文字は、主に粘土板に刻まれた。エジプトのヒエログリフと違い、オリエント世界の共通文字として、多数の言語の表記に使用された。

問3 正解① (翻訳の歴史) 21

- ①P. 115の②参照。魏晋南北朝時代の中国では混乱の中で、儒教以外の宗教が発展していく。北朝(華北)では国家仏教や寇謙之による新天師道(道教)が確立し、南朝(江南)では貴族仏教が隆盛をむかえる。五胡十六国時代に西域から来た仏僧澄・鳩摩羅什は、仏典翻訳や仏寺建立に関わった。

- ②エウクレイデスの幾何学はヘレニズム自然科学の象徴的存在であり (P. 84 の²), イスラーム世界経由でヨーロッパの 12 世紀ルネサンスに影響を与えたほか, 明末清初の宣教師を通じて, 中国の学問の発展にも寄与した。P. 173 の³を見て欲しい。イエズス会の宣教師は儒教的伝統を尊重しながら布教につとめ, 並行して, 学問の普及にも尽力した。エウクレイデスの著書の翻訳は, マテオ=リッチ『幾何原本』である。なお, 李自珍は『本草綱目』の著者である。P. 173 の¹参照。
- ③P. 128 参照。異文化に寛容なイスラーム世界では, ギリシアの古典文献がアラビア語に翻訳され, 哲学・医学・数学など「外来の学問」の発展に寄与した。特にアリストテレスの存在感は大きく, ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスを経て, トマス=アクィナスの神学の大成につながる。P. 150 の人物コラムも読んで欲しい。
- ④中世騎士道文学のあたりから芽生えた俗語文学の流れはルネサンス文学で開花し, 各国の国語文学(国民文学)の発展につながる。ダンテの『神曲』(P. 188), シェークスピアの劇文学(P. 192)などが典型と言えるだろう。この流れは, 宗教改革にも影響し, 活版印刷の改良も加わって, ルターによる聖書のドイツ語訳とその普及が実現した(P. 194 の下段)。

B

問4 正解④ (植民地化の歴史) 22

この問は、P. 257 と P. 244 の地図が整理できていれば正解できる。

- ①ベルギー領はコンゴ。アンゴラはポルトガル領。P. 211 も見てみると、アフリカの沿岸部には、早期からポルトガル領がある。
- ②イタリア領はリビア・ソマリランドなど。アルジェリアはシャルル 10 世時代のフランスが獲得(P. 227)。
- ③ビスマルクは 1884 年にベルリン会議を開催し(サン=ステファノ条約をめぐるベルリン会議とは別)、アフリカ分割の先占権を各国と確認した。
- ④イギリス領インド帝国にはパキスタン・バングラデシュ・ビルマ・スリランカも含まれていた。

問5 正解① (旅行記や地理書) 23

- a 渡印僧である法顕・玄奘・義浄の辿ったルートと著作は整理したい。法顕については P. 115 の 2 と P. 23。季節風を利用したマラッカ海峡ルートと陸路を併用している。玄奘・義浄については P. 118 の 1 と P. 27。義浄は、シュリーヴィジャヤにおける大乘仏教の隆盛も報告している。
- b P. 92 の 1 参照。ローマ文化の中にもギリシア人の活躍が見られる。ストラボン『地理誌』もその一例。

問6 正解② (1848年革命) 24

- ①P. 264 参照。ニコライ 2 世の退位はロシア暦二月革命。このあと革命は、戦争継続を主張する臨時政府と停戦および社会主義革命の徹底をめざすソヴィエト政権が争う構図となり、レーニンの率いるボリシェヴィキの独裁体制へ向かう。
- ②ドイツ統一の過程は P. 228。19 世紀前半の統一運動は、民衆的な「下からの統一」のエネルギーが大きく、ドイツ関税同盟に見られるように経済的統一が先行する特徴を持つ。1848 年にメッテルニヒが失脚し、ウィーン体制が崩壊すると、ドイツ統一は加速する。しかし、同年に開催されたフランクフルト国民議会で、統一の方向性は大きく舵を切る。プロイセン中心の「上からの統一」に転換し、民族問題を抱えるオーストリアを排除する「小ドイツ主義」が採用されるに至った。
- ③P. 224 の 3 参照。ナポレオン 3 世のメキシコ干渉のあと、ディアスはアメリカ資

本導入による経済発展を企図したが、かえって格差拡大を招き、マデロらによるメキシコ革命が起こった。

- ④P. 227 の⁵を参照。パリ市民がブルボン復古王政を打倒したのが七月革命。この革命は、ウィーン体制打倒をめざす革命運動の第2波の起点となった(P. 223 の²)。

C

問7 正解② (未成年者の労働条件の改善) 25

産業革命の時期の早いイギリス・フランスを中心に、資本主義社会の矛盾を懸念し、理想社会建設をめざす動きが活発化した。P. 215 を見て、オーウェン、サン=シモン、フーリエの活動を確認しよう。後に、彼らの思想は、マルクスから空想的社会主義と批判的にとらえられた。

問8 正解① (ナチス=ドイツがポーランドに返還を要求した都市) 26

P. 266 で、ヴェルサイユ条約におけるドイツ領の処理を確認し、地図上でも位置を見ておきたい。ポーランド回廊は、ドイツからポーランドに割譲され、隣接するダンツィヒは国際連盟管理下となった。この機会に、アルザス・ロレーヌ、ザール、ラインラントなどの位置も見ておきたい。

問9 正解③ (書物の歴史) 27

①ローマ法の発展については P. 92 の¹を参照し、市民法→万民法の流れ、集大成としての『ローマ法大全』くらいはおさえておきたい。ユスティニアヌスはヴァンダル王国・東ゴート王国を滅ぼして地中海全域に領土をひろげ、全盛期のローマ帝国の栄光を取り戻そうとした。ハギア=ソフィアの建立や『ローマ法大全』の編纂事業も、このような文脈でとらえたい。P. 24 でユスティニアヌス時代のビザンツ帝国を確認するとともに、隣国ササン朝もホスロー1世のもとで全盛をむかえていることに注意しよう。

②『古今図書集成』は清代のもの(P. 173 の²)。清朝の編纂事業は、中国文化を尊重する姿勢を見せる懐柔策の1つだが、学者の動向を探る思想統制の意味も持っていた。元代の文化については P. 165 の⁴。元代は科挙も断続的な実施に留まるなど、儒学的な文化は低調であった。むしろ、庶民向けの雑劇(元曲)や小説がめだつ。元代に抑え込まれた漢人士大夫のエネルギーは、明代の朱子学・陽明学の発展に注がれる。

③P. 97 参照。ヒンドゥー教の聖典には、バラモン教から継承した諸ヴェーダのほかに、民族叙事詩『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』、各ヴァルナの規範を記した『マヌ法典』も含まれており、その融合的性格を示している。これらの多くが、グプタ朝時代に完成する(P. 98 の年表を参照)。

- ④P. 207 参照。啓蒙思想は、絶対王政の矛盾が明確な 18 世紀のフランスで発展した。
『百科全書』に掲載される内容は思想・科学・芸術など多岐にわたり、上流階級の集まるサロンで醸成されたものも多かった。

第4問 人やモノの移動

A

問1 正解① (漢の武帝の治世) 28

- ①P. 110 の年表を参照。武帝は匈奴を討って敦煌など4郡，衛氏朝鮮を征服して楽浪など4郡，南越を滅ぼして南海など9郡を置いた。
- ②党錮の禁についても P. 110 の年表。後漢時代に宦官や外戚が専横化し，儒学を身につけた官僚と対立した。政争に明け暮れ，有効な政策を出さない政府に対し，黄巾の乱が起こる。
- ③府兵制は西魏に始まる (P. 114 の 1)。唐代のシステムについては P. 117 の 6 を参照。均田制で土地を与えられた農民に兵役を課するのが府兵制である。均田制・租調庸制・府兵制は三位一体と言える。だからこそ，均田制の崩壊とともに府兵制も成立しなくなり，募兵制に転換するのである。
- ④P. 110 参照。武帝が専売化したのは，塩・鉄・酒である。

問2 正解② (中国歴代王朝の都) 29

- ①周の都は鎬京から洛邑に遷る (P. 106 の地図 B)。いずれも黄河の流域である。建康は東晋など南朝の都で，現在の南京にあたる (P. 114)。
- ②唐代の三夷教について P. 118 の 1 で確認。祆教・景教・摩尼教などの漢字表記も見ておきたい。P. 119 でわかるように，国際都市長安には各宗派の寺院も建立された。ただし，マニ教を国教化したウイグル人が唐と敵対するようになると，マニ教は弾圧の対象となった。
- ③北宋の開封を陥落させたのは女真族の金であり，徽宗・欽宗も連行された (靖康の変, P. 152 の年表と地図 B)。西夏は西域の交易ルートをおさえた。
- ④モンゴル帝国時代のネットワークを利用して往来した人物は多数 (P. 165 の 2)。カルピニとルブルックはフランチェスコ会修道士で，陸路カラコルムに至った (カラコルムはオゴタイの築いたモンゴル帝国の都であり，「元の都」ではない)。フビライが大都に遷都して以降に往来したコルヴィノ，マルコ=ポーロ，イブン=バットゥータはいずれも海路を利用している。大運河で連結されたネットワークの存在を想起させる。

問3 正解① (ユーラシアの東西を結ぶ人やモノの動き) 30

- ①P. 15, P. 17, P. 98 参照。サータヴァーハナ朝はローマとの季節風交易で栄えた。
- ②P. 110 参照。後漢の西域都護となった班超は、部下の甘英を大秦に向けて派遣した。P. 114 を見ると、甘英はシリアに到達している。この時代、エジプトはローマ帝国領となっており、プトレマイオス朝エジプトは滅亡している。
- ③P. 82 の地図C参照。ヘレニズム諸国家の東端がバクトリアで、その西隣にイラン系のパルティアが位置する。このパルティアも、初期はギリシア的色彩が濃厚であった。また、ササン朝とともに、東西交易で大きな利益を得ていた(P. 77 の2)。
クテシフォンはパルティアの都となる都市(P. 76 の1)。
- ④P. 17 の通り、大秦王安敦の使者と名乗る者は日南郡に来航した。

B

問4 正解④ (移民や移住の歴史) 31

- ①ハワイへの大量の移民として想起したいのは日本人である。P. 237 の③を参照。
アイルランドからの移民の多くはアメリカ本土へ向かう。P. 226 の③を見て欲しい。アイルランド人はイギリス人地主のもとで小作人となり貧しい生活を強いられたうえ、小麦の多くをイギリスに奪われていた。そこに襲ったのが 19 世紀半ばのジャガイモの凶作と大飢饉であり、アメリカへの移民が急増する。彼らは中国系移民とともに、大陸横断鉄道の建設などに関わった (P. 236 の写真の解説)。
- ②P. 74 の①参照。バビロン捕囚は新バビロニアのネブカドネザル 2 世から始まり、アケメネス朝のキュロス 2 世で終わる。ここまで、ヤハウエに対する信仰を守り抜いた人々がユダヤ教徒(ユダヤ人)となる。ミタンニはアッシリアの故地を支配していた王国で、ヒッタイト・カッシートと並び称される (P. 71 地図B)。
- ③P. 246 の②参照。東南アジアの農園労働力は華僑・印僑が中心だった。
- ④11 世紀頃の西欧における農業の発展と人口増加は、キリスト教世界拡大へのエネルギーを生み出し、イェルサレムへの十字軍の背景となった。P. 142 の表「十字軍の経過」を参照。同時期に起こったアルビジョワ十字軍、イベリア半島のレコンキスタ、ドイツ人の東方植民も同じ文脈でとらえたい (P. 143 の③)。

問5 正解① (船に関わる出来事) 32

- ①P. 81 の⑤参照。ソロンの改革、クレステネスの改革によって、アテネの参政権は開放的になりつつあった。ペルシア戦争の「中」で起こったサラミスの海戦で無産市民が活躍すると、民主化は頂点に達する。
- ②P. 166 の①を参照。北虜南倭に苦しんだ明は海禁緩和に転じたが、かえって、交易活動による周辺勢力の台頭を招いた。豊臣秀吉の朝鮮侵略やヌルハチの後金建国は、このような文脈でとらえて欲しい。秀吉の侵略に際して朝鮮は、明からの援軍と李舜臣率いる亀甲船水軍で対抗した (P. 175 の人物コラム)。
- ③P. 248 の①や P. 249 地図Bを参照。アロー号事件を契機の 1 つとするアロー戦争は、第 2 次アヘン戦争とも称される。アヘン戦争後も中国との貿易が伸び悩んでいたイギリス・フランスなどの不満が、実際の開戦理由であろう。いずれにせよ、戦争の主役は英仏であり、オランダは関わっていない。

④P. 313 および P. 56 参照。ビキニ水爆実験を行ったのはアメリカである。

問 6 正解④ (芸能や文芸の歴史) 33

①P. 98 の年表参照。カーリダーサ『シャクンタラー』はサンスクリット文学の代表格であり、グプタ朝時代につくられた。グプタ朝時代はヒンドゥー教の諸聖典の完成、ナーランダー僧院における仏教教義の研究、アジャンター石窟寺院の純インド風美術(グプタ美術)の流行、などの特質も合わせ持っており、インド古典文化の完成期と評価されている。

②P. 206 の①と P. 209 の②参照。イギリスではシェークスピアなどの劇作家が早期に生まれ、上流階級向けの演劇の上演も行われていたが、フランスではルイ 14 世時代に、古代ギリシア・ローマのスタイルを模倣した宮廷演劇が発展した。コルネイユ・ラシーヌ・モリエールの 3 人は並び称される。

③ワヤンは『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』などを題材とする影絵芝居である(P. 100 の②)。ジャワではクディリ朝やシンガサリ王国の時代にヒンドゥー教が優勢となり(P. 102)、ワヤンの伝統も広がっていった。マラッカ王国を起点に島嶼部がイスラーム化したあとも(P. 102)、バリ島などにヒンドゥー教文化が残存している。

④雑劇・小説とともに、音曲に合わせる詞(韻文の歌詞)が流行したのは宋代である(P. 155 の④)。唐代の漢詩の発展(王維・李白・杜甫など)と対比させておこう。

C

問7 正解④ (ハンガリーの歴史) 34

- ①P. 278 の年表参照。1935 年のコミンテルンの大会で反ファシズム統一戦線が提唱された。これを人民戦線と称する。この後、スペインのアサーニャやフランスのブルムが人民戦線内閣を組織する。
- ②・③・④第二次世界大戦後の東欧に動きについては P. 311 を参照。フルシチョフによるスターリン批判の影響で、ハンガリーとポーランドで反ソ暴動が起こった。このとき、ハンガリーの首相だったのがナジ=イムレである。1960 年代には、チェコスロヴァキアでドプチェクによる民主化運動(プラハの春)も起こった。やがて、冷戦終結に伴って東欧革命(1989 年)が起こり、各国の民主化が進展する過程で新しい政権が生まれていった。ポーランドのワレサ、チェコスロヴァキアのハヴェルなどを挙げるができる。その裏側では、政権を追われる権力者もいた。ルーマニアのチャウシェスクの処刑は典型と言えるだろう。

問8 正解③ (人の移動の歴史) 35

- ①P. 134 の地図A参照。フン人の移動を受けてイベリア半島に向かったのは西ゴート人である。ゲルマン諸族の移動のあと、東欧各地に拡散したのがスラヴ人であり、その様子は P. 140 の2で確認できる。
- ②P. 70 の1を参照。エジプトは中王国時代のあと、馬と戦車の戦術を持つヒクソスの支配を受けた。砂漠に囲まれて孤立的なエジプトでは、メソポタミアに比べて異民族の侵入が少ないので、ヒクソスについては注目したい。
- ③P. 182 年表および P. 183 の地図参照。
- ④P. 264 の年表参照。ロシア革命が始まり、ニコライ 2 世が退位した直後に帰国したレーニンは四月テーゼを発表し、臨時政府に対抗する姿勢を明確にした。ブレジネフはフルシチョフの後任のソ連書記長(P. 310)。

問9 正解③ (セルビアの死亡者数の推移) 36

この問題は、露土戦争後のサン=ステファノ条約・ベルリン条約、およびサラエヴォ事件の年号を問うているのだろう。両条約については P. 232 の地図Bなどを参照。サラエヴォ事件は P. 261 に掲載されている。